

〇中学校での教育実習で、私はたくさんのことを学びました。

まずは授業をすることの難しさ。私が担当したのは1年生と2年生でした。特に1年生はまだ集団で動くことに慣れていないため、的確な指示をいつも出さないとはいけません。私は授業をとにかく進めていくことしか考えられなかったのも、細かい指示が出せませんでした。また、各種目の知識不足で、きちんとポイントやアドバイスを伝えることができませんでした。他の先生方の授業を見せていただくと、生徒の動かし方はもちろん、一人ひとりをしっかり見て、適切なアドバイスをされていて、楽しい授業でした。私自身は、二週目の終わり頃になると、少しは余裕をもって生徒と接することができるようになり、コミュニケーションが取れたと思います。自然と生徒との距離が縮まった気がして、褒めたり、アドバイスを言うこともできるようになりました。

水泳の授業では、今まで50m泳ぐことができなかつた生徒が泳げるようになって、一緒に手を叩いて喜びあったことが印象に残っています。できなかつたことができるようになる嬉しさや、できるようになるまで頑張ることの大切さを教えることは、教師として最も重要なことだと思います。「できた」ときの生徒の表情は本当に素敵で、感動しました。

私が学んだことは他にもあります。それは、自分と向き合うことです。

私ははじめ、生徒と表面的に仲良くなろうとしていました。だから視野が狭く、周りが全然見ることができなくて、気持ちだけが焦っていました。そんなとき、担当の先生や保健室の先生、同じ教育実習生に話を聞いてもらい、「生徒に好かれる教師が良い」のではないということに気付きました。生徒が悩んでいる時に寄り添って話を聞き、一緒に考える教師が、本当の意味で良い教師なのだと思います。

そのことに気付いてからは、生徒一人ひとりをよく見て関わるようになりました。最終日に、ある生徒が「先生が『大丈夫?』と声を掛けてくれて嬉しかった」とメッセージに書いていました。きっと、こういう積み重ねが信頼関係につながっていくのだと思います。大切なことに気付いて、本当に良かったです。

また、クラスを運営していくことの大変さも学びました。私が担当したクラスの生徒はみんな自分の役割に責任を持っていて、クラスで問題があれば必ず全員で話し合い、解決していました。人の気持ちを考え、助け合えるクラスは素晴らしいと、改めて感じました。生徒が主体となってクラスを創っていくために、私自身もっと考えなければならぬと強く思いました。

この3週間で、私は“教師”についてたくさん考えました。仕事は山ほどあるだろうし、大変なこともあるだろうけど、それでも私は絶対に教師になります。

生徒と過ごした3週間は本当に最高でした。

たくさんの人に感謝しています。ありがとうございました。